

家庭教育つうしん

令和5年12月発行第85号

発行責任者：士別市教育委員会社会教育課
課長 千葉 真奈美
(電話 26-7308)

メール：shakaikyouikuka@city.shibetsu.lg.jp
作成者：士別市家庭教育推進員 共同作成

「メディアが子どもに与える影響」について

電子メディアとの接触が多くなると、子どもたちが身体を動かす機会が減り、直接人と顔をあわせて遊ぶ時間も減ってしまいます。また、生活リズムの乱れ、視力低下、依存症など体や心への影響も心配されます。電子メディアによって与えられる情報の質やその影響を考える必要もあります。

そこで今回は、「メディアが子どもに与える影響」をテーマに、家庭教育推進員からの情報をお届けします。

「メディアと利用者の成長」

メディアというと、少し前までは「マスメディア」などとして使われ、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を表すことが多かったのですが、現在は、インターネットのネットワークを活用した情報伝達手段として使われることが増えています。

子どもたちは、日常生活の中で、ネット動画を見たり、検索をしたりして情報を集めるほか、誰もが双方向で情報のやりとりができる機能を使う場面も多くなっています。

メディアの種類が増えることで、メディアに触れる時間も増え、目や脳への悪影響が現れている例や依存症になる例が報告されています。また、実体験せずに画面で見聞きするのみで分かったつもりになっていることが指摘されています。一方、子どものときに様々な体験をすることの大切さを、周りの大人は意識する必要があります。

メディアの中でも、SNSやYouTubeに代表されるソーシャルメディアが、利用者に大きな影響を与えてしまいます。ワンクリックで巨額を支払うことになったり、個人攻撃になったり、個人情報や拡散してしまったりして、発信した人も被害を受けた人も、その家族も、たくさんの人の冷たい投稿にさらされ、長期にわたって心に大きな傷を追い続ける場合もあります。

取返しのつかない大きな影響を受ける前に、メディアの使い方や危険性を学び、教え、家族で問題点について話し合ったり利用時間やルールを決めたりして、大人が子どもを見守る環境を作っておくことが大切だと思います。

(温根別小学校教頭：大久保推進員)

「メディアの利用 大切なのはバランスです」

子どもたちがメディアに触れる機会は、年々、早期化・長時間化の傾向にあります。乳幼児期は、心とからだの基礎をつくる大切な時期です。健全な発達のためには、親との会話やスキンシップ、友だちと遊んだりすることが、とても重要です。テレビやビデオの刺激は、子どもにとっては完全な受け身になるため、見せっぱなしは、コミュニケーション能力が育ちにくくなる、その結果、キレやすくなる、いじめ行動が増えるとの報告があるそうです。ただ、メディアを少しでも見せると脳に悪影響が出るということではありません。

問題なのは・・・動画を見せたまま、何時間も子どもをほったらかしにする

親がとなりにもいても、ずっと無視をして携帯やパソコンを使っている

ということが良くないのであって、大切なのはバランスです。

用事があって、どうしても一定時間、見せてしまうこともあると思います。ただ、テレビに任せっぱなしにするのではなく、ひと段落したら、しっかり子どもと遊んだり、会話したりする時間を大切にしましょう。同じテレビを見ている時間も、一緒に笑ったり、「おもしろかったね」と語りかけたりできれば、それも親子のコミュニケーションになります。

※参考文献 明橋大二 著 大好き！が伝わる ほめ方・叱り方

(北星保育園副所長：宮田推進員)

「試される大人のメディアの使い方」

家庭教育や社会教育の研修会などに参加していると、「大人が子どもに見本となる姿を見せる」という話をよく聞きます。子どもにとって、保護者、教員、地域住民は、見て学ぶ絶好の教科書的な存在であります。そんな大人が子どもと、動画やゲームの時間など、について話し合う時、大人の言動が一致していることが大切ではないでしょうか。

先日、士別市 PTA 連合会研究大会での講演にて、子どもの前ではスマホ等を使う時間を少なくし、子どもが寝てから大人時間を設けるというルールづくりも大切というお話をされていました。子どもの使用ルールだけでなく、保護者のルールづくりも使い方改善の第一歩になるのではないのでしょうか。

(士別市教育委員会社会教育課主事：田中推進員)

「子どもの育ちとメディア」

ある研修会において、小児科医がきっぱりと「スマホの使いすぎで急激に内斜視が悪化して手術をしなければならない子どもが増えている。」とのお話を受け、もはや視力低下や近視だけではない状況に衝撃でざわざわとした気持ちになりました。もちろんスマホが心身に与える影響は大人にもあることを自覚しながら使う毎日ではあるものの、できるだけ前述のような状況に至らないよう家庭教育として今一度遡って考え、これからの在り方を見直してみることは、お子様にとって大変有意義なことと思います。

さて、スマホとのかかわりは出生後から始まっていると推察します。親子の愛着形成や基本的信頼関係が育まれるこの時期に、養育者の視線がスマホにあることを客観的に見つめるといかがでしょうか。子どもが様々な要求を目で訴えているのにも関わらず、肝心の目がスマホにあるとすると、安心したい気持ちや助けてほしいという行動を減多に示さない、または最小限しか示さないといった「反応性アタッチメント障害」が発症する場合もあり、3 歳くらいまでに急激に発達することばの育ちは大人との双方向の関わりが特に重要であると踏まえると、人生の土台作りである最も大切な時期からメディアの影響があることを自覚したいものですね。

最後に小児科医は親のお下がりスマホは要注意とも話されていました。いずれにしてもメディア使用が長時間・習慣化すると心身に影響を与え、その改善は難しいとのこと。大人が正しい知識を持って手本となることが課題なのでしょう。

(士別幼稚園園長：谷推進員)

「メディアをお休みする日におすすめ本」



「父母＆保育園の先生おすすめの赤ちゃん絵本 200 冊」

玄光社 (2019.5) 絵本ナビ 監修

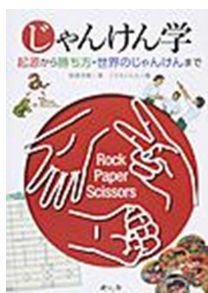
今日はテレビを見ないで本を読もう！思わず開きたくなる魅力的な表紙や中面が多数レイアウトされていて、見ているだけでも楽しくなってしまうブックガイドです。ロングセラーから新しい絵本まで多数掲載しているので赤ちゃんだけでなく、成長してから読み返して感想を交流したり、新しくこれ読んでみようかな？という家族でのコミュニケーションのきっかけ作りにもオススメです。



「トランプゲーム大全【2人用】」

スモール出版 (2022.11) 田中、ROM 著

今日はスマホや switch を置いて遊ぼう！というときにアナログゲームの定番、トランプはいかがですか？大人も知らないようなトランプのルールが 117 種類も掲載されていて、簡単に遊べるものからカジノさながらの得点制ゲームなど様々あります。家族での交流に、出先での退屈しのぎなど、リアルなカードの手触りも含めて楽しんでみませんか。



「じゃんけん学～起源から勝ち方・世界のじゃんけんまで」

今人舎 (2015.5) 稲葉 茂勝 著

ルールを知らない人はいないというほど定番でどこでも誰でも道具も使わず遊べるじゃんけんを、とことん深掘りした 1 冊です。日本のじゃんけんの歴史や、世界じゃんけん協会が提唱する勝ち方、勝ち負けのルールを覚えるだけでも大変そうな外国の 5 種じゃんけん (水→岩→拳銃→板→小鳥→水…マレーシア) など、思わず誰かに言いたくなる豆知識にしてみてもいかがでしょうか。

これらの本のほかにも、関連する図書を貸し出ししています。ぜひ図書館へお越しください。

(市立士別図書館司書：安藤推進員)